



## 農業委員会新体制がスタート



### 第1回農業委員会 総会開催される

去る9月24日、任期満了に伴い新たに改選された46名（公選委員40名、農協推薦1名、共済推薦1名、改良区推薦1名、議会推薦4名、死亡により1名欠員）の農業委員により、第1回一関市農業委員会総会が開催され、会長には伊藤公夫委員、会長職務代理者には永畠幸一委員が選出されました。

農地専門委員会委員長には、渋谷皓委員、同副委員長に佐藤繁委員、農政専門委員会委員長には、石川誠司委員、同副委員長に千葉正紀委員が選出されました。

### 会長就任のご挨拶



一関市農業委員会  
会長 伊藤 公夫

任期満了により農業委員が改選され、新たに農業委員会の体制が決まり、私が引き継ぎ会長の重職を担うことになりました。どうぞよろしくお願いいたします。

農業委員会とは、農業委員会等に関する法律において

「農業生産力の増進及び農業経営の合理化を図り、農業の健全な発展に寄与する」ことを目的として、農地の確保と有効利用、担い手の育成確保など農地と人を守り活かす重要な役割を担う組織であると認識しております。

特に、農地については食糧生産になくはならないものであり、農地を守ることは食糧を守ることに繋がり、ひいては国を守ることとなります。

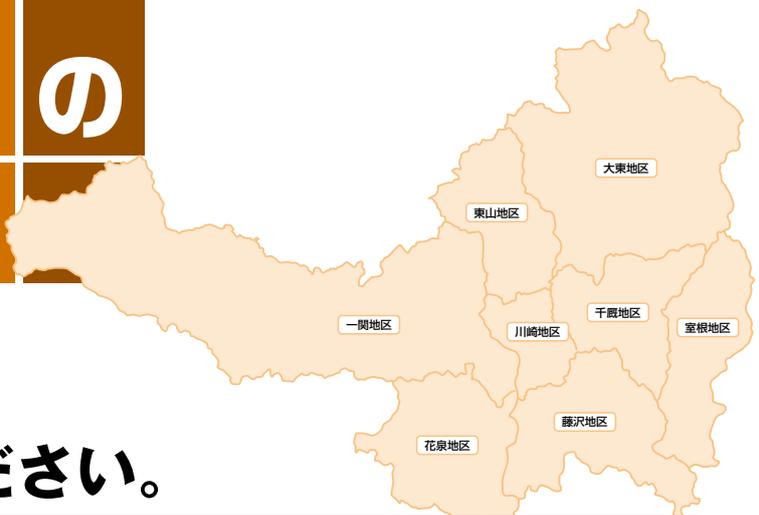
しかしながら、農業・農村における状況は、担い手の減少、高齢化、遊休農地の増加など問題が山積していることに加え、昨年の米価の大幅下落をはじめとした農畜産物価格の低迷や生産資材の高止まりの中、TPP交渉においては大筋合意が発表されるなど、われわれ農業者は、かつて経験したことのない状況を目の当たりにしております。

農業委員会としましては、農地の適正な管理の指導、担い手の育成・確保ならびに遊休農地対策など、本市農政の推進と地域農業の健全な発展に寄与する農業委員会活動を積極的に推進して参ります。

今日の農業、農村は、多くの課題を抱えておりますが、新たな体制のもと総力を挙げて農業委員の使命を果たして参りますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。



# あなたの地区の 担当農業委員



農地の貸借、転用、  
農業者年金等については  
地区担当委員へご相談ください。

地域	氏名	電話番号	担当地区	地域	氏名	電話番号	担当地区
一関	永 畠 幸 一	23-7278	中里	大東	石 川 誠 司	75-4380	渋民・摺沢
	齋 藤 憲 子	23-5924	山目		南 浦 秀 山	72-3462	曾慶
	佐々木 守 美	39-2461	巖美・山谷		菅 原 豊 一	72-3725	摺沢
	佐々木 久 吉	39-2447	巖美・本寺	千厩	千 葉 孝 子	52-5413	磐清水
	木 村 修 一	21-3697	狐禅寺		佐 藤 繁	52-4736	千厩
	佐 藤 徹	43-3784	弥栄		千 田 幹 雄	52-3391	小梨
	千 條 幸 男	29-2717	巖美		千 葉 太 郎	52-3884	清田
	三 浦 善 昭	29-2048	萩荘	東山	藤 野 眞 喜	56-2268	奥玉
	齋 藤 衛	24-2267	萩荘		伊 藤 公 夫	48-2442	松川
	佐 藤 圭 一	28-2584	舞川		千 葉 久 壽 郎	47-3583	長坂
菅 原 吉 昭	21-3775	滝沢	吉 田 和 賀 子		47-3739	長坂	
佐 藤 均	82-1417	金沢	佐 藤 修		47-3519	田河津	
花泉	渋谷 皓	82-1167	日形	室根	千 葉 綾 雄	64-3547	矢越
	猪 股 恭 一	82-3238	油島		芳 賀 武 郎	65-2041	津谷川
	佐 藤 多 賀 幸	82-4861	涌津	川崎	小 山 浩	64-3462	折壁
	阿 部 東 悦	82-1354	老松		伊 藤 弘 志	43-3429	薄衣
	皆 川 清 喜	84-2927	永井		遠 藤 勝 幸	43-2567	門崎
	佐々木 敬 治	82-2812	花泉		佐々木 栄 一	63-4048	黄海（南）
大東	小 山 悦 郎	74-2323	興田	藤沢	千 葉 ひろあき	63-2107	徳田・新沼
	鈴 木 勝	72-2201	大原		千 葉 正 紀	63-4627	大籠・保呂羽
	小野寺 照 夫	76-2254	猿沢		伊 藤 勉	63-3708	黄海（北）
	武 田 文 一	74-2234	興田		畠 山 信 吾	63-2667	藤沢
	小野寺 進	77-2203	大原		佐 藤 久 仁 子	48-3178	増沢・砂子田

## 地目変更には ご注意ください

経営移譲年金受給にかかる後継者等への特定処分対象農地、贈与税の納税猶予対象農地を農地以外に地目変更されると、経営移譲年金の支給停止および贈与税の納税猶予が打ち切りとなります。



## 農業所得の申告について

経営移譲年金の受給者は、**農業所得の申告**を後継者名義で行う必要があります。受給者本人が申告をすると、農業を再開したとみなされ、経営移譲年金の**支給停止該当**となりますので、ご注意ください。（農協の組合員、農業共済関係等の名義も同様です）

経営移譲を受けた後継者の方は、農地の管理・耕作をきちんと行いましょう。

経営移譲年金を  
受給している方へ



平成  
27年度

# 岩手県農業委員大会が 開催される



11月6日、都南文化会館にて開催された平成27年度岩手県農業委員大会へ会長ほか委員25名が参加しました。

T P P 大筋合意については、「今後批准に向け国会で論議されるが、慎重な審議を求めるとする特別要請を採択したほか、農政の大変革期の中で、国と県に対し食料安定供給の確保や農業・農村振興施策の充実強化などの要請を決議しました。

この席上で一関市は5名の委員が「農業委員会等活動表彰（各部門）」を、当委員会は、同農業者年金部門でその功績と活動により表彰されました。

## 農業委員会活動情報

### 農地パトロールを実施



本年度の農地パトロールを農業委員及び事務局職員、各支所担当で11月に延べ41日間実施しました。対象は、市内全域の農地ですが、今年度は特に藤沢地域を重点に、後継者等が無く草刈等の管理がされていない農地や山林原野化し作付けができなくなった農地について調査しました。

各地域ごとに班編成し、農地利用状況調査と荒廃農地調査の補完調査を併せ、2,470筆、323haを確認するとともに周辺農地の状況も確認しました。今後は耕作者等の意向を把握し、耕作の再開や農地中間管理機構等への貸付等、意向に沿った農地の利用を進めることとなります。



## 農業施策のさらなる充実を

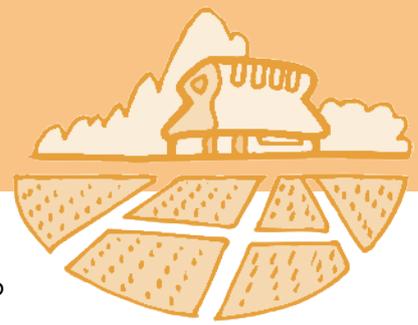
### 市へ建議書を提出

11月25日、一関市農業委員会側は伊藤公夫会長、永島幸一会長職務代理者、石川誠司農政専門委員長、千葉正紀同副委員長、渋谷皓農地専門委員長、佐藤繁同副委員長が、市側は、市長、農林部長が出席して各農業委員の要望をまとめた8項目からなる建議書を提出しました。

主な要望事項は、原発事故による放射能汚染対策、担い手の確保と経営所得安定対策、国や県への要請事項などです。これに対して市からは、放射能汚染対策については、市の最優先事項として引き続きしっかりと取り組んでいくこと、また、国の農業方針には、地方の声を国へ届けながら持続可能な地域農業のために取り組んでいくこと、国や県への要請では放射能汚染対策やT P P 交渉などあらゆる機会をとらえて要請していくことなどが話されました。



# 農地賃借料情報



平成26年1月から同年12月までに締結（公告）された賃借料における賃借料水準（10aあたり）は、以下のとおりとなっております。

① 田（水稲）の部（10a 当たり）				
	平均額	最高額	最低額	データ数
一関・花泉地域	9,716 円	16,000 円	3,000 円	7,003
大東・千厩・東山・室根・川崎・藤沢地域	11,035 円	18,418 円	3,298 円	1,688

② 畑の部（10a 当たり）				
	平均額	最高額	最低額	データ数
一関・花泉地域	3,074 円	5,263 円	1,526 円	77
大東・千厩・東山・室根・川崎・藤沢地域	4,147 円	8,242 円	2,287 円	79

## 備考



- 地域ごとに契約額が極端に高額、低額（平均値の1.7倍以上および0.3倍以下のもの）な実例をあらかじめ削除し全体集計しております。
- 賃借料が無料の使用貸借契約もありますが実例として含めておりません。
- 対象農地の収穫見込み量や形状、隣接する道水路等の状況を考慮し両者で協議の上決定してください。

## 編集後記



農協法一部改正の内、「農業委員会等に関する法律の改正」が9月4日公布され、来年4月1日より施行されます。委員は公選制から首長による任命制になり、委員会の委嘱により、新たに農地利用最適化推進委員が設置されます。農地集積・耕作放棄地解消・新規就農支援等の役割が強化されま

た。当農業委員会においては、施行日前までに改選が終わり、新法の適用による任命は3年後になります。TPP大筋合意の影響を考えると、任期を待たずして農地利用最適化の体制強化が求められています。

## 農委だより編集委員紹介

編集委員長 伊藤 勉  
副編集委員長 佐藤 修  
編集委員  
芳賀 武郎 遠藤 勝幸  
菅原 豊一 皆川 清喜  
佐藤 圭一 藤野 眞喜

先月、いわき市への県外研修で、常磐道を通りましたが、福島第一原発が近づき放射線量が急増するにつれ、人間の営みが停止した風景が現れ、人為的な環境破壊によって死滅した農地の姿に、本当に復元はできるのかと、過酷な現実を突きつけられました。さて、この度の改選に当たり「農委だより」の編集は各地域8名の新たな委員で担って参ります。当農業委員会の活動や元気な地域紹介の他にも目まぐるしく変わる制度情報等の提供に努めて参りますので、農業者皆様の身近な情報誌として引続きご愛読をお願い致します。本号よりタイトルを、一関地方を理想の農地に、との想いを込めて、「一関市農業委員会だより「いわいの大地」と致しました。よろしくお願い致します。

編集委員長 伊藤 勉

